



平成 29 年 12 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社メディカルシステムネットワーク  
 代表者名 代表取締役社長 田 尻 稲 雄  
 (コード番号 4350 東証第一部)  
 問合せ先 取締役専務執行役員 田 中 義 寛  
 (TEL. 011-612-1069)

### 行使価額修正条項付き第4回新株予約権（第三者割当て）の発行及び コミットメント条項付き第三者割当て契約に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 12 月 22 日開催の取締役会決議において、第 4 回新株予約権（第三者割当て）（以下「本新株予約権」といいます。）を第三者割当てにより発行すること、及び金融商品取引法による届出の効力発生後に、下記の内容を含むコミットメント条項付き第三者割当て契約を締結することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 募集の概要

(1) 割 当 日	平成 30 年 1 月 9 日
(2) 発行新株予約権数	5,000 個
(3) 発 行 価 額	新株予約権 1 個当たり 4,973 円（総額 24,865,000 円）
(4) 当該発行による潜在株式数	潜在株式数：5,000,000 株 上限行使価額はありませぬ。 下限行使価額は 458 円ですが、下限行使価額においても、潜在株式数は 5,000,000 株です。
(5) 調達資金の額	3,287,865,000 円（差引手取概算額）
(6) 行使価額及び行使価額の修正条件	当初行使価額 654 円 行使価額は、本新株予約権の各行使請求の効力発生日の直前取引日の当社普通株式の終値の 90%に相当する金額に修正されますが、その価額が下限行使価額を下回る場合には、下限行使価額が修正後の行使価額となります。
(7) 募集又は割当方法	第三者割当ての方法による
(8) 割 当 予 定 先	メリルリンチ日本証券株式会社
(9) そ の 他	当社は、メリルリンチ日本証券株式会社（以下「メリルリンチ日本証券」といいます。）との間で、金融商品取引法に基づく届出の効力発生後に、コミットメント条項付き第三者割当て契約を締結する予定です。当該第三者割当て契約において、以下の内容が定められています。詳細は、「3. 資金調達方法の概要及び選択理由 (1) 資金調達方法の概要」に記載しております。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社による本新株予約権の行使の指定</li> <li>・ 当社による本新株予約権の行使の停止</li> <li>・ メリルリンチ日本証券による本新株予約権の取得に係る請求</li> </ul> なお、当該契約において、本新株予約権の譲渡の際に当社取締役会の承認が必要である旨が定められており、また、譲渡された場合でも、上記のメリルリンチ日本証券の権利義務は、譲受人に引き継がれる旨が規定されております。

(注) 調達資金の額は、本新株予約権の払込金額の総額に本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額から発行諸費用の概算額を差し引いた金額です。なお、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。行使価額が修正又は調整された場合には、

調達資金の額は増加又は減少します。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、調達資金の額は減少します。

## 2. 募集の目的及び理由

当社は、下記「【資金調達の目的】」に記載の資金調達を行うために、様々な資金調達方法を検討いたしました。下記「3. 資金調達方法の概要及び選択理由 (2) 資金調達方法の選択理由 【他の資金調達方法との比較】」に記載のとおり、公募増資やMSCB等の各種資金調達方法には各々メリット及びデメリットがある中で、メルリンチ日本証券より提案を受けた下記「3. 資金調達方法の概要及び選択理由 (1) 資金調達方法の概要」に記載のスキーム（以下「本スキーム」といいます。）は、下記「3. 資金調達方法の概要及び選択理由 (2) 資金調達方法の選択理由 【本スキームの特徴】」に記載のメリットがあることから、下記「3. 資金調達方法の概要及び選択理由 (2) 資金調達方法の選択理由 【本スキームのデメリット】」に記載のデメリットに鑑みても、本スキームによる資金調達方法が当社の資金調達ニーズに最も合致していると判断いたしました。そのため、本新株予約権（行使価額修正条項付新株予約権）の発行により資金調達を行おうとするものであります。

### 【資金調達の目的】

当社グループは、企業理念として「良質な医療インフラの構築を通じて地域住民のQOL（Quality of Life）向上に貢献すること」を掲げ、医薬品等ネットワーク事業（医薬品卸と調剤薬局・病医院との間の医薬品オンライン受発注及び関連業務のアウトソーシング）と調剤薬局事業の2事業を中核事業として展開しております。

当社グループが関わる医薬品業界におきましては、高齢化の進展に伴う医療費の増加により中長期的なマーケットの拡大が見込まれる一方、2年に一度行われる診療報酬改定においては、国民医療の充実と併せて医療費の抑制を目指す方向性が示されております。平成30年4月には診療報酬と介護報酬の同時改定が控えておりますが、社会保障費の一段の抑制に向けて厳しい改定となることが予想されており、今後もこの傾向が継続するものと見込まれております。

このような環境下、当社グループでは平成27年5月に第四次中期経営計画を発表し、医薬品ネットワークの拡大と「未病・予防－医療－介護」の地域薬局機能の充実によって、地域医療を支える企業として、新たなステージへ到達することを目指して取り組んでまいりました。

具体的には、調剤薬局を取り巻く環境が厳しくなることを医薬品等ネットワーク事業を拡大する好機と捉え、中小薬局への営業強化と新規サービスの提供により順調に加盟店を増やしてまいりました。平成29年3月期は新規加盟件数が大幅に増加し、370件と過去最高を更新したほか、平成29年9月には加盟店が大台の2,000件を突破、同年12月1日現在の医薬品ネットワーク加盟件数は2,294件、今期（平成30年3月期）の新規加盟件数は既に前期比42%増の524件に達するなど、急速に成長速度を上げております。当社といたしましては、本年5月9日に発表いたしました「5年後には5,000件、業界シェア10%を目指す」という目標の早期実現に向けて引き続き最大限の努力をしております。

調剤薬局事業については、地域住民の皆様の健康を様々な面からサポートする地域薬局として、患者様の健康情報を一元的に管理するかかりつけ薬剤師・薬局への取り組みを推進しております。また、医療連携や在宅医療の推進、OTC・健康食品の店舗配備、栄養士の組織化や運動プログラムの展開等を積極的に進めることにより、コミュニティ・ケア機能（未病・予防・医療・介護機能）を強化するとともに、処方箋応需枚数の増加を図っております。このような既存店舗の機能強化に加え、厳しい経営環境に耐えうる強固かつ効率的な事業基盤の確立を図るべく、M&Aによる規模の拡大を推進してまいりました。グループの調剤薬局店舗数は平成27年3月末の345店舗から平成29年12月1日時点で385店舗へと増加しております。

また、現在は、当社グループにおけるガバナンスの強化とコスト削減を図り、効率的な経営体制の構築と収益力の強化を実現していくための組織再編を進めております。平成29年7月1日付で北海道内で調剤薬局を運営する子会社3社が合併したほか、同10月には当社が調剤薬局事業の統括会社を含む子会社3社を吸収合併いたしました。この再編により、今後の診療報酬改定や経営環境の変化に対応できる体制を構築し、企業価値の向上を目指してまいります。

第四次中期経営計画に基づくこれらの取り組みは着実な成果を挙げる一方で、医療費抑制策の進展により、調剤薬局の事業環境は急速に変化してまいりました。かかりつけ機能等の薬局に求められる役割が増加する一方で、中小規模の薬局では薬剤師の採用難や経営者の高齢化による後継者不足等が深刻化しており、近年はM&Aによる業界の再編が進んでおります。薬局の機能強化を進めながら医療

費抑制を実現するためには、規模の拡大と更なる効率化が不可欠であり、M&Aは当社の今後の成長を加速させるための戦略として極めて重要であると考えております。特に、在宅医療や介護連携等のコミュニティ・ケア機能に強みを有する案件に積極的に取り組み、今後高齢者が増加するエリアにおけるドミナント形成を主眼に効率的な拠点展開を図ってまいります。なお、平成30年3月期は重点施策としてM&Aによる20店舗の取得を目標としております（平成29年12月21日時点における取得予定数：19店舗）。

また、医薬品等ネットワーク事業に対する加盟ニーズや求められる役割もますます拡大してゆくことが見込まれます。当社は、平成29年1月19日には株式会社キャリアブレインと、同5月19日にはオークラ情報システム株式会社と業務提携を行い、新規加盟店の獲得とサービス向上の点で着実に成果が出ておりますが、今後も多様な業界の企業と連携・提携しながら薬局経営をサポートする様々なサービスの拡充を進め、付加価値の高い事業として成長性と収益性を両立させてまいります。

これらの成長戦略を進めてゆく中で、医薬品等ネットワーク事業・調剤薬局事業とも積極的に資本提携やM&Aを活用していくためには、相応の財務基盤の強化を併せて行うことによってバランスをとることが重要であると考えております。平成29年9月末時点における自己資本比率は17.0%ですが、持続的な成長と経営環境の変化に備えるため、第四次中期経営計画の中でも財務健全性の確保を掲げ自己資本比率の向上を図っております。

以上の状況を踏まえ、調達した資金につきましては、①医薬品等ネットワーク事業のサービス強化及び事業規模拡大のためのM&A資金の確保、②財務基盤強化のための借入金の返済に充当することを予定しています。

当社は、長期的に安定した財務基盤を維持し、将来の資金需要を見据えた機動的な資金調達手段を確保しつつ、かつ既存株主の利益を十分に配慮した資金調達が必要であると判断し、今回の新株予約権の発行を決定いたしました。また、今回の資金調達は、当社の中長期的な企業価値を向上させ、既存株主の皆様の利益に資するものであると判断しております。

### 3. 資金調達方法の概要及び選択理由

#### (1) 資金調達方法の概要

今回の資金調達は、当社がメリルリンチ日本証券に対し、行使可能期間を2年間とする行使価額修正条項付き新株予約権（行使価額修正条項の内容は、別添の発行要項第10項に記載されています。）を第三者割当ての方法によって割り当て、メリルリンチ日本証券による新株予約権の行使に伴って当社の資本が増加する仕組みとなっております。

当社は、メリルリンチ日本証券との間で、金融商品取引法に基づく届出の効力発生後に、下記の内容を含むコミットメント条項付き第三者割当て契約を締結いたします。

#### 【本新株予約権の行使の指定】

コミットメント条項付き第三者割当て契約は、あらかじめ行使価額修正条項付き新株予約権（行使価額修正条項の内容は、別添の発行要項第10項に記載されています。）をメリルリンチ日本証券に付与した上で、今後資金需要が発生した際に、当社が、一定の条件に従って本新株予約権を行使すべき旨及び行使すべき本新株予約権の数を指定（以下「行使指定」といいます。）できる仕組みとなっており、メリルリンチ日本証券は、かかる指定を受けた場合、指定された数の本新株予約権を、20取引日の期間中に、当社普通株式の終値が下限行使価額の120%に相当する金額を下回った場合や当社から本新株予約権の取得に関する通知を受け取った場合には指定された数の本新株予約権を行使しないことができる等、一定の条件及び制限のもとで、行使することをコミットします。当社は、この仕組みを活用することにより、資金需要に応じた機動的な資金調達を行うことができます。

但し、当社が一度に指定できる本新株予約権の数には一定の限度があり、本新株予約権の行使により交付されることとなる当社普通株式の数が、行使指定の前日までの1ヶ月間又は3ヶ月間における当社普通株式の1日当たり平均出来高数のいずれか少ない方の3日分を超えないように指定する必要があります。複数回の行使指定を行う場合には20取引日以上の間隔を空けなければならない、また、当社普通株式の終値が本新株予約権の下限行使価額の120%に相当する金額を下回る場合、未公表のインサイダー情報等がある場合、当社の財政状態又は業績に重大な悪影響をもたらす事態が発生した場合等一定の場合には当社は行使指定を行うことはできません。なお、当社は、行使指定を行った場合、その都度、東京証券取引所を通じて適時開示を行います。

#### 【本新株予約権の行使の停止】

当社は、その裁量により、本新株予約権の全部又は一部につき、行使することができない期間を指定（以下「停止指定」といいます。）することができます。停止指定の期間は当社の裁量により決定することができ、また、当社は、一旦行った停止指定をいつでも取り消すことができます。但し、上記の本新株予約権を行使すべき旨の指定を受けてメリルリンチ日本証券がコミットしている本新株予約権の行使を妨げることとなるような停止指定を行うことはできません。

#### 【本新株予約権の取得に係る請求】

メリルリンチ日本証券は、平成30年1月10日から平成31年11月30日の間のいずれかの取引日における当社普通株式の終値が本新株予約権の下限行使価額を下回った場合に当該取引日の翌取引日に当社に対して通知することにより、又は平成31年12月1日以降平成31年12月12日までに当社に対して通知することにより、本新株予約権の取得を請求することができます。かかる請求がなされた場合、当社は、本新株予約権の発行要項第14項第(1)号に従い、当該時点で残存する新株予約権の払込金額と同額の金銭を支払うことにより、原則として15取引日以内に本新株予約権を取得します。

#### 【本新株予約権の譲渡】

コミットメント条項付き第三者割当て契約に基づいて、本新株予約権の譲渡には当社取締役会の承認が必要となり、また、本新株予約権が譲渡された場合でも、当社が割当予定先に対して本新株予約権の行使指定、停止指定及びその取消しを行う権利、並びに割当予定先が当社に対して本新株予約権の取得を請求する権利は、譲受人に引き継がれます。

#### (2) 資金調達方法の選択理由

上記の資金調達方法は、当社が新株予約権の行使の数量及び時期を相当程度コントロールすることができるという特徴をもっています。すなわち、当社に資金需要が発生し、本新株予約権の行使を希望する場合には、一定の期間内に行使すべき本新株予約権の数を指定することができ、一方で、株価動向等を勘案して当社が本新株予約権の行使を希望しない場合には、本新株予約権を行使することができない期間を指定することもできる手法（エクイティ・コミットメントライン）です。そのため、資金需要に応じた柔軟な資金調達が可能になるとともに、株価に対する一時的な影響が小さいものと考えられます。

当社は、今回の資金調達に際し、機動的な資金調達と財務基盤の強化をバランスよく進める観点から多様な資金調達手段を検討し、以下のような点を総合的に勘案した結果、メリルリンチ日本証券より提案を受けた本スキームによる資金調達は、資金調達額や時期をある程度コントロールすることができ、一時に大幅な株式価値の希薄化が生じることを抑制することが可能であり、既存株主の利益に配慮しながら当社の資金ニーズに対応しうる、現時点における最良の選択であると判断しました。

#### 【本スキームの特徴】

- ① 当社の資金需要や株価動向を総合的に判断した上で、柔軟な資金調達が可能であること。
- ② 本新株予約権の目的である当社普通株式数は5,000,000株で一定であるため、株価動向によらず、最大増加株式数は限定されていること（平成29年9月30日の総議決権数298,868個（発行済株式総数29,889,600株）に対する最大希薄化率は、16.7%）。
- ③ 当社普通株式の終値が下限行使価額の120%に相当する金額を下回る場合、割当予定先に対して本新株予約権の行使を指定することはできず、また、当社普通株式の終値が下限行使価額を下回る場合、割当予定先が本新株予約権の取得を請求する権利を有することになるというデメリットはあるが、本新株予約権の行使価額には上限が設定されていないため、株価上昇時には調達金額が増大するというメリットを当社が享受できること。
- ④ 当社の判断により、本新株予約権の払込金額と同額の金銭を支払うことで、本新株予約権の全部又は一部を取得することができること。
- ⑤ メリルリンチ日本証券は、本新株予約権の行使により取得する当社普通株式を長期間保有する意思を有しておらず、また、当社の経営に関与する意図を有していないこと。
- ⑥ メリルリンチ日本証券は、本新株予約権の行使により取得する当社普通株式に関連して株券貸借に関する契約を締結する予定はないこと。
- ⑦ メリルリンチ日本証券に本スキームと同様のスキームに関して十分な実績があると認められること。

【本スキームのデメリット】

- ① 市場環境に応じて、行使完了までには一定の期間が必要となること。
- ② 株価が下落した場合、実際の調達額が当初の予定額を下回る可能性があること。
- ③ 株価が下限行使価額を下回って推移した場合、調達ができない可能性があること。

【他の資金調達方法との比較】

- ① 公募増資による新株の発行は、資金調達が一時に可能となりますが、同時に1株当たり利益の希薄化をも一時に引き起こすため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること。
- ② 株価に連動して転換価額が修正される転換社債型新株予約権付社債（いわゆる「MSCB」）については、その発行条件及び行使条件等は多様化しているものの、一般的には、転換により交付される株数が転換価額に応じて決定されるという構造上、転換の完了まで転換により交付される株式総数が確定しないため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること。
- ③ 他の行使価額修正型の新株予約権については、行使の制限や制限の解除のみが可能なスキームがありますが、本スキームでは、これらに加えて、一定期間内に行使すべき新株予約権の数を指定することも可能であり、より機動的な資金調達を図りやすいと考えられること。また、行使価額が修正されない新株予約権については、株価上昇時にその上昇メリットを当社が享受できず、一方で株価下落時には行使が進まず資金調達が困難となること。
- ④ 第三者割当てによる新株の発行は、資金調達が一時に可能となりますが、同時に1株当たり利益の希薄化をも一時に引き起こすため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること、及び現時点では新株の適当な割当先が存在しないこと。
- ⑤ 借入れによる資金調達は、調達金額が負債となるため、財務健全性の低下が見込まれること。

4. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期

(1) 調達する資金の額（差引手取概算額）

・本新株予約権に係る調達資金	3,294,865 千円
本新株予約権の払込金額の総額	24,865 千円
本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額	3,270,000 千円
・発行諸費用（弁護士費用、価格算定費用、司法書士費用、信託銀行費用等）	7,000 千円
・差引手取概算額	3,287,865 千円

(注) 上記差引手取概算額は、本新株予約権の払込金額の総額及び本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額から、本新株予約権に係る発行諸費用の概算額を差し引いた金額です。本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。なお、本新株予約権の行使価額が修正又は調整された場合には、上記金額は増加又は減少します。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、上記金額は減少します。

(2) 調達する資金の具体的な使途

具体的な使途	金額（百万円）	支出予定時期
① 医薬品等ネットワーク事業のサービス強化及び事業規模拡大のためのM&A資金	2,000	平成30年1月 ～平成32年3月
② 財務基盤強化のための借入金の返済	1,287	平成30年1月 ～平成32年3月

当社は、上記表中に記載のとおり資金を充当することを予定しておりますが、各資金使途についての詳細は以下のとおりです。

- ① 医薬品等ネットワーク事業のサービス強化及び事業規模拡大のためのM&A資金の確保について

当社は、医薬品等ネットワーク事業においてはサービス強化を目的とした提携戦略の推進、

調剤薬局事業においては今後高齢者が増加するエリアにおけるドミナント形成を主眼に効率的な拠点展開を図っていくためにM&Aによる規模の拡大を推進しており、平成30年3月期は重点施策としてM&Aによる20店舗の取得を目標としております。現時点では、具体的なM&A案件が決まっている事実はありませんが、時期を逃さずM&Aを実行するためにも、手元資金の確保が必要であると考えております。なお、本号記載の資金使途に充当する金額は、当期における当社のM&A予算を参考に、本新株予約権の発行による調達資金からの充当金額と借入等他の資金調達手段による調達資金からの充当金額のバランスを考慮の上決定したものです。

② 財務基盤強化のための借入金の返済について

当社は、持続的な成長と経営環境の変化に備えるため、第四次中期経営計画の中で財務健全性の確保を掲げ自己資本比率の向上を図っております。現在進めているグループ組織再編に先立ち、平成29年4月4日に子会社である株式会社ファーマホールディングの株式を1,201百万円で追加取得し完全子会社としており、また、調剤薬局事業において、新規開局やM&Aにより規模拡大を進めておりますが、いずれも資金は金融機関からの借入により充当しております。今回の調達に係る資金の一部については、金融機関からの借入金の返済に充当する予定であります。

(注) 1. 差引手取概算額については、上記のとおり支出する予定であり、支出時期までの資金管理については、当社の銀行預金等での安定的な金融資産で運用保管する予定であります。

2. 上記資金使途は、平成32年3月までの資金使途の内訳を記載したものでありますが、資金調達額や調達時期は本新株予約権の行使状況により影響を受けることから、上記資金使途及びその内訳については、変更される可能性があります。また、資金を使用する優先順位としましては、上記①から充当する予定であり、調達額が予定に満たない場合には、当該時点で未充当の資金使途には充当できなくなる可能性があります。一方、調達額が予定より増額となった場合には、資金調達の状況と返済期日等を勘案の上、適宜上記②の支出に充当する予定であります。

また、割当予定先との間で締結するコミットメント条項付き第三者割当て契約には、当社による行使指定条項が定められておりますが、株価等によっては、当社が割当予定先に行使指定を行っても、十分な資金を調達できない場合もあります。したがって、市場における当社株価の動向等によっては本新株予約権の全部又は一部が行使されない可能性を含んでおります。このように本新株予約権によって十分な資金を調達することができなかった場合には、別途の手段による資金調達の実施又は事業計画の見直しを行う可能性があります。なお、資金使途及びその内訳の変更や別途の資金調達の実施、事業計画の見直しを行った場合、その都度、速やかに開示を行います。

## 5. 資金使途の合理性に関する考え方

上記「2. 募集の目的及び理由」に記載のとおり、今回調達する資金は今後の当社収益の向上に寄与するもので、かかる資金使途は合理的なものであると考えております。したがって、今回の資金調達は、中長期的な企業価値の向上により既存株主の皆様の利益にも資するものと考えております。

## 6. 発行条件等の合理性

### (1) 発行条件が合理的であると判断した根拠

当社は、本新株予約権の発行要項及び割当予定先であるメリルリンチ日本証券との間で締結する予定のコミットメント条項付き第三者割当て契約に定められた諸条件を考慮した本新株予約権の価格の評価を第三者算定機関である株式会社赤坂国際会計（代表者：黒崎 知岳、住所：東京都港区元赤坂1-1-8）（以下「赤坂国際会計」といいます。）に依頼しました。当該算定機関は、本新株予約権の発行要項及び割当予定先であるメリルリンチ日本証券との間で締結する予定のコミットメント条項付き第三者割当て契約に定められた諸条件を考慮し、一般的な価格算定モデルであるモンテカルロ・シミュレーションを基礎として、評価基準日の市場環境、当社株式の流動性、当社の資金調達需要、割当先の株式処分コスト、割当予定先の権利行使行動及び割当予定先の株式保有動向等を考慮した一定の前提（当社が継続的に行使指定を行うこと、当社からの通知による取得が行われないこと、割当予定先は当社からの行使指定に応じて市場出来高の一定割合の範囲内で速やかに権利行使及び売却を実施

すること、割当予定先による本新株予約権の行使及び株式の売却に際して当社がその時点で公募増資等を実施したならば負担するであろうコストと同水準のコストが発生すること等を含みます。)を置き本新株予約権の評価を実施しました。

当社は、当該算定機関が上記前提条件を基に算定した評価額レンジ(4,910円~4,973円)を参考として、割当予定先との協議を経て、本新株予約権1個の払込金額を金4,973円としました。

また、本新株予約権の当初行使価額は、当該発行に係る取締役会決議日の直前取引日(平成29年12月21日)の当社普通株式の普通取引の終値に相当する金額としており、その後の行使価額も、本新株予約権の各行使請求の効力発生日の直前取引日の当社普通株式の普通取引の終値の90%に相当する金額に修正されるものの、その価額は下限行使価額である458円を下回ることはありません。そのため、本新株予約権の行使価額は、下記「11.最近3年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況(4)最近の株価の状況 ②最近6か月間の状況」及び「③発行決議日前取引日における株価」に記載の最近6ヶ月間及び発行決議日直前取引日の当社株価と比べて過度に低い水準となることはなく、かかる行使価額に照らしても、本新株予約権の払込金額は適正な価額であると考えております。

当社監査役全員も、赤坂国際会計は当社と顧問契約関係がなく、当社経営陣から一定程度独立していると認められること、赤坂国際会計は割当予定先から独立した立場で評価を行っていること、赤坂国際会計による本新株予約権の価格の評価については、その算定過程及び前提条件等に関して赤坂国際会計から説明又は提出を受けたデータ・資料に照らし、当該評価は合理的なものであると判断できることに加え、本新株予約権の払込金額は赤坂国際会計によって算出された評価額の上限額と同額としていることから、割当予定先に特に有利でないと判断しております。

#### (2) 発行数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠

今回の資金調達により、平成29年9月30日現在の総議決権数298,868個(発行済株式総数29,889,600株)に対して最大16.7%の希薄化が生じます。しかしながら、当該資金調達により、上記「2.募集の目的及び理由」に記載のとおり、今後収益の向上を図り、企業価値の増大を目指していくこととしており、今回の資金調達はそれに伴う希薄化を考慮しても既存株主の株式価値向上に寄与するものと考えられ、発行数量及び株式の希薄化の規模は合理的であると当社は判断しました。

なお、①本新株予約権の目的である当社普通株式数の合計5,000,000株に対し、当社普通株式の過去6ヶ月間における1日当たり平均出来高は127,713株であり、一定の流動性を有していること、②本新株予約権は当社の資金需要に応じて行使をコントロール可能であり、かつ③当社の判断により新株予約権を取得することも可能であることから、本新株予約権の発行は、市場に過度の影響を与える規模ではなく、希薄化の規模も合理的であると判断しました。

## 7. 割当予定先の選定理由等

### (1) 割当予定先の概要

(1) 名 称	メルリリンチ日本証券株式会社		
(2) 所 在 地	東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋一丁目三井ビルディング		
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 瀬口 二郎		
(4) 事 業 内 容	金融商品取引業		
(5) 資 本 金	119,440百万円		
(6) 設 立 年 月 日	平成10年2月26日		
(7) 発 行 済 株 式 数	2,388,801株		
(8) 決 算 期	12月31日(※)		
(9) 従 業 員 数	718名		
(10) 主 要 取 引 先	機関投資家、政府機関、内外の事業法人・金融法人		
(11) 主 要 取 引 銀 行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、 バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ東京支店		
(12) 大株主及び持株比率	メルリリンチ・インターナショナル・インコーポレーテッド 100%		
(13) 当 事 会 社 間 の 関 係			
資 本 関 係	該当事項はありません。		
人 的 関 係	該当事項はありません。		
取 引 関 係	該当事項はありません。		
関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	該当事項はありません。		
(14) 最 近 3 年 間 の 経 営 成 績 及 び 財 政 状 態 (単 位 : 百 万 円) (※)			
決 算 期	平成27年3月期	平成27年12月期	平成28年12月期
営 業 収 益	53,590	39,348	49,983
営 業 利 益	△803	△703	437
経 常 利 益	△969	△1,431	443
当 期 純 利 益	△6,946	△2,025	2,742
純 資 産	167,122	165,096	162,353
総 資 産	6,163,319	7,298,716	3,160,794
1株当たり当期純利益(円)	△2,908	△848	1,148
1株当たり配当金(円)	-	-	-
1株当たり純資産(円)	69,961	69,112	67,964
(※) メルリリンチ日本証券は親会社との決算期の統一を行い、経営及び事業運営の効率化を図ることを目的として、平成27年12月期から決算日を従来の毎年3月31日から毎年12月31日に変更しております。この変更に伴い、平成27年12月期に係る会計年度の期間は、平成27年4月1日から平成27年12月31日までの9ヶ月間となっております。			

(注) メルリリンチ日本証券は、東京証券取引所の取引参加者であるため、東京証券取引所に対しては反社会的勢力に該当しないことに関する確認書の提出はしていません。メルリリンチ日本証券は、反社会的勢力の排除に関する基本方針を定め、かかる基本方針をホームページにおいて公表しております。また、当社は、メルリリンチ日本証券が、かかる基本方針に基づき、反社会的勢力との関係遮断に関する組織的な対応を推進するための統括チーム(コンプライアンス内)を設置する等、反社会的勢力排除のための取組みを行っていることを、同社からのヒアリング等により確認しております。

上記を踏まえ、当社は、メルリリンチ日本証券及び同社の役員が反社会的勢力ではなく、また反社会的勢力との関係を有していないものと判断しております。

### (2) 割当予定先を選定した理由

当社としては様々な資金調達先及び調達方法を検討してまいりましたが、メルリリンチ日本証券よ



り提案を受けた本スキームによる資金調達方法が、株価に対する一時的な影響を抑制しつつ、株価動向及び資金需要動向に応じた機動的な新株発行による資金調達を達成したいという当社のファイナンスニーズに最も合致していると判断しました。

当社は、メリルリンチ日本証券以外に他の国内外の金融機関からも資金調達の方法の説明や提案を受け、公募増資、MSCB、借入れ等の各種資金調達方法を検討いたしました。公募増資につきましては、資金調達が一時に可能となりますが、同時に1株当たり利益の希薄化をも一時に引き起こすため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること、MSCBにつきましては、一般的には、転換により交付される株数が転換価額に応じて決定されるという構造上、転換の完了まで転換により交付される株式総数が確定しないため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること、さらに借入れにつきましては、調達金額が負債となるため、財務健全性の低下が見込まれること等、当社のニーズに合致するものではありませんでした。

また、当社は、メリルリンチ日本証券以外に他の国内外の金融機関からも本スキームに類似した資金調達方法の提案を受けました。その中で、メリルリンチ日本証券から提案を受け、本新株予約権の行使により取得する当社株式の売却方法として、メリルリンチ日本証券が有するトレーディング機能等を活用して、株価に対する影響に配慮しつつ執行することを想定していることや、「1. 募集の概要」及び「3. 資金調達方法の概要及び選択理由 (2) 資金調達方法の選択理由 【本スキームの特徴】」に記載した商品性やメリルリンチ日本証券の過去の実績等を総合的に勘案して、メリルリンチ日本証券を割当予定先として選定いたしました。

(注) 本新株予約権に係る割当ては、日本証券業協会会員であるメリルリンチ日本証券により買受けられるものであり、日本証券業協会の定める「第三者割当増資等の取扱いに関する規則」(自主規制規則)の適用を受けて募集が行われるものです。

### (3) 割当予定先の保有方針及び行使制限措置

本新株予約権について、当社とメリルリンチ日本証券との間で、継続保有及び預託に関する取り決めはありません。また、コミットメント条項付き第三者割当て契約において、本新株予約権の譲渡の際に当社取締役会の承認が必要である旨が定められています。

メリルリンチ日本証券は、本新株予約権の行使により取得する当社株式を長期間保有する意思を有しておらず、取得した当社株式については速やかに売却する予定である旨の口頭での報告を受けております。

また、当社は、株式会社東京証券取引所の定める有価証券上場規程第434条第1項及び同施行規則第436条第1項から第5項までの定めに基づき、メリルリンチ日本証券と締結するコミットメント条項付き第三者割当て契約において、原則として、単一暦月中にMSCB等(同規則に定める意味を有します。以下同じ。)の買受人の行使により取得される株式数が、MSCB等の払込日時点における上場株式数の10%を超える場合には、当該10%を超える部分に係る転換又は行使を制限するよう措置(メリルリンチ日本証券が本新株予約権を第三者に売却する場合及びその後本新株予約権がさらに転売された場合であっても、当社が、転売先となる者との間で、当該10%を超える部分に係る転換又は行使を制限する内容を約する旨定めることを含みます。)を講じる予定です。

### (4) 割当予定先の払込みに要する財産の存在について確認した内容

割当予定先からは、本新株予約権の払込金額(発行価額)の総額の払込み及び本新株予約権の行使に要する資金は確保されている旨の口頭での報告を受けており、割当予定先の完全親会社であるバンク・オブ・アメリカ・コーポレーションの平成29年9月22日提出の半期報告書及び割当予定先の平成28年12月期の事業概要(金融商品取引法第46条の4に基づく説明書類)に含まれる貸借対照表から、割当予定先及びその完全親会社における十分な現金・預金の存在を確認したことから、当社としてかかる払込み及び行使に支障はないと判断しております。また、本日現在においても、割当予定先からは、本新株予約権の払込金額(発行価額)の総額の払込み及び本新株予約権の行使に足りる十分な現金・預金を保有している旨の口頭での報告を受けております。

### (5) 株券貸借に関する契約

当社並びに当社の役員、役員関係者及び大株主は、本新株予約権の割当予定先であるメリルリンチ日本証券との間において、本新株予約権の行使により取得する当社株式に係る株券貸借契約を締結する予定はありません。

## 8. 募集後の大株主及び持株比率

募集前（平成 29 年 9 月 30 日現在）		
氏名	持株数（株）	持株比率（％）
合同会社エスアンドエス	2,769,100	9.26
沖中恭幸	2,480,500	8.30
秋野治郎	2,211,700	7.40
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)（信託口）	1,497,300	5.01
日本マスタートラスト信託銀行(株)（信託口）	824,900	2.76
(株)E P 総合	800,000	2.68
KBL EPB S.A. 107704 （常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部）	661,000	2.21
田尻稲雄	619,900	2.07
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW （常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部）	556,900	1.86
メディカルシステムネットワーク従業員持株会	497,900	1.67

（注） 1. 本新株予約権の募集分については長期保有を約していないため、本新株予約権の募集に係る潜在株式数を反映した「募集後の大株主及び持株比率」を表示していません。

2. 「持株比率」は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

## 9. 今後の見通し

今回の資金調達による平成 30 年 3 月期の当社の業績に与える影響は、軽微であります。

## 10. 企業行動規範上の手続き

本新株予約権の発行規模は、「6. 発行条件等の合理性（2）発行数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠」に記載のとおりであり、平成 29 年 9 月 30 日現在の総議決権数に対して最大 16.7%の希薄化が生じます。このため、①希薄化率が 25%未満であること、②支配株主の異動を伴うものでないこと（本新株予約権全てが権利行使された場合であっても、支配株主の異動が見込まれるものではないこと）から、株式会社東京証券取引所の定める有価証券上場規程第 432 条に定める経営者から一定程度独立した者より当該割当ての必要性及び相当性に関する意見の入手並びに株主の意思確認手続きは要しません。

## 11. 最近 3 年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況

### （1）最近 3 年間の業績（連結）

（単位：百万円）

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
連結売上高	75,548	87,715	88,865
連結営業利益	2,641	3,783	2,113
連結経常利益	2,540	3,860	2,109
親会社株主に帰属する当期純利益	885	1,720	571
1 株当たり連結当期純利益（円）	37.08	60.14	19.31
1 株当たり配当金（円）	8.00	9.50	10.00
1 株当たり連結純資産（円）	243.31	334.87	345.27

### （2）現時点における発行済株式数及び潜在株式数の状況（平成 29 年 11 月 30 日現在）

	株式数	発行済株式数に対する比率
発行済株式数	29,889,600 株	100.0%
現時点の転換価額（行使価額） における潜在株式数	—	—
下限値の転換価額（行使価額） における潜在株式数	—	—

上限値の転換価額（行使価額） における潜在株式数	—	—
-----------------------------	---	---

(3) 今回のエクイティ・ファイナンス後における発行済株式数及び潜在株式数の状況

	株 式 数	発行済株式数に対する比率
発 行 済 株 式 数	29,889,600 株	100.0%
現時点の転換価額（行使価額） における潜在株式数	5,000,000 株	16.7%
下限値の転換価額（行使価額） における潜在株式数	5,000,000 株	16.7%
上限値の転換価額（行使価額） における潜在株式数	上限行使価額はありません。	上限行使価額はありません。

(注) 上記潜在株式数は、平成 29 年 11 月 30 日現在における潜在株式数に、本新株予約権に係る潜在株式数を加えた数を記載しております。

(4) 最近の株価の状況

① 最近 3 年間の状況

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
始 値	469 円	468 円	540 円
高 値	518 円	789 円	765 円
安 値	320 円	387 円	346 円
終 値	468 円	460 円	540 円

② 最近 6 か月間の状況

	平成 29 年 7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
始 値	516 円	482 円	508 円	510 円	538 円	599 円
高 値	575 円	530 円	533 円	570 円	650 円	727 円
安 値	478 円	476 円	484 円	505 円	526 円	588 円
終 値	482 円	508 円	508 円	536 円	595 円	654 円

(注) 平成 29 年 12 月の株価については、平成 29 年 12 月 21 日現在で表示しております。

③ 発行決議日前取引日における株価

	平成 29 年 12 月 21 日
始 値	647 円
高 値	663 円
安 値	640 円
終 値	654 円

(5) 最近 3 年間のエクイティ・ファイナンスの状況

・公募増資（一般募集）

払 込 期 日	平成 27 年 6 月 8 日
調 達 資 金 の 額	1,551,614,400 円（差引手取概算額）
発 行 価 額	普通株式 1 株につき 461.79 円
募集時における 発行済株式数	普通株式 25,969,600 株
当該募集による 発行株式数	普通株式 3,360,000 株
募集後における 発行済株式総数	普通株式 29,329,600 株
発行時における 当初の資金用途	当社の医薬品等ネットワーク事業への設備投資資金、当社連結子会社の調剤薬局等の店舗出店に係る設備投資資金（土地取得資金、店舗建設資金、什器備品購入資金等）、賃貸・設備関連事業における新規物件取得資金、運転資金、

	M&A資金及び店舗建設資金等として借り入れた短期借入金の返済資金
発行時における 支出予定時期	平成27年7月から平成29年3月まで
現時点における 充 当 状 況	当初の計画通り充当しております。

・自己株式の処分（一般募集）

払 込 期 日	平成27年6月8日
調 達 資 金 の 額	175,480,200円（差引手取概算額）
処 分 価 額	普通株式1株につき461.79円
募集時における 発行済株式数	普通株式25,969,600株
当該募集による 処分株式数	普通株式380,000株
処分時における 当初の資金用途	当社の医薬品等ネットワーク事業への設備投資資金、当社連結子会社の調剤薬局等の店舗出店に係る設備投資資金（土地取得資金、店舗建設資金、什器備品購入資金等）、賃貸・設備関連事業における新規物件取得資金、運転資金、M&A資金及び店舗建設資金等として借り入れた短期借入金の返済資金
処分時における 支出予定時期	平成27年7月から平成29年3月まで
現時点における 充 当 状 況	当初の計画通り充当しております。

・自己株式の処分（第三者割当て）

払 込 期 日	平成27年6月8日
調 達 資 金 の 額	829,600,000円（差引手取概算額）
処 分 価 額	普通株式1株につき488円
募集時における 発行済株式数	普通株式25,969,600株
当該募集による 処分株式数	普通株式1,700,000株
割 当 先	株式会社総合臨床ホールディングス（現 株式会社E P 総合） 芙蓉総合リース株式会社 株式会社りそな銀行 株式会社福岡銀行 株式会社北陸銀行
処分時における 当初の資金用途	当社の医薬品等ネットワーク事業への設備投資資金、当社連結子会社の調剤薬局等の店舗出店に係る設備投資資金（土地取得資金、店舗建設資金、什器備品購入資金等）、賃貸・設備関連事業における新規物件取得資金、運転資金、M&A資金及び店舗建設資金等として借り入れた短期借入金の返済資金
処分時における 支出予定時期	平成27年7月から平成29年3月まで
現時点における 充 当 状 況	当初の計画通り充当しております。

・第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）

払 込 期 日	平成27年7月8日
調 達 資 金 の 額	258,602,400円（差引手取概算額）
発 行 価 額	普通株式1株につき461.79円
募集時における 発行済株式数	普通株式25,969,600株
当該募集による 発行株式数	普通株式560,000株

募集後における 発行済株式総数	普通株式 29,889,600 株
割 当 先	大和証券株式会社
発行時における 当初の資金用途	当社の医薬品等ネットワーク事業への設備投資資金、当社連結子会社の調剤薬局等の店舗出店に係る設備投資資金（土地取得資金、店舗建設資金、什器備品購入資金等）、賃貸・設備関連事業における新規物件取得資金、運転資金、M&A資金及び店舗建設資金等として借り入れた短期借入金の返済資金
発行時における 支出予定時期	平成 27 年 7 月から平成 29 年 3 月まで
現時点における 充 当 状 況	当初の計画通り充当しております。

以 上

(別紙)

## 株式会社メディカルシステムネットワーク第4回新株予約権（第三者割当て） 発行要項

1. 本新株予約権の名称  
株式会社メディカルシステムネットワーク第4回新株予約権（第三者割当て）（以下「本新株予約権」という。）
2. 申込期間  
平成30年1月9日
3. 割当日  
平成30年1月9日
4. 払込期日  
平成30年1月9日
5. 募集の方法  
第三者割当ての方法により、全ての本新株予約権をメリルリンチ日本証券株式会社に割り当てる。
6. 本新株予約権の目的である株式の種類及び数
  - (1) 本新株予約権の目的である株式の種類及び総数は、当社普通株式 5,000,000 株とする（本新株予約権 1 個当たりの目的たる株式の数（以下「割当株式数」という。）は 1,000 株とする。）。但し、下記第(2)号乃至第(4)号により割当株式数が調整される場合には、本新株予約権の目的である株式の総数は調整後割当株式数に応じて調整されるものとする。
  - (2) 当社が第 11 項の規定に従って行使価額（第9項第(2)号に定義する。）の調整を行う場合には、割当株式数は次の算式により調整される。但し、調整の結果生じる 1 株未満の端数は切り捨てる。なお、かかる算式における調整前行使価額及び調整後行使価額は、第 11 項に定める調整前行使価額及び調整後行使価額とする。
$$\text{調整後割当株式数} = \frac{\text{調整前割当株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$
  - (3) 調整後割当株式数の適用日は、当該調整事由に係る第 11 項第(2)号、第(5)号及び第(6)号による行使価額の調整に関し、各号に定める調整後行使価額を適用する日と同日とする。
  - (4) 割当株式数の調整を行うときは、当社は、調整後の割当株式数の適用開始日の前日までに、本新株予約権者に対し、かかる調整を行う旨並びにその事由、調整前割当株式数、調整後割当株式数及びその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、第 11 項第(2)号⑤に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。
7. 本新株予約権の総数  
5,000 個
8. 各本新株予約権の払込金額  
金 4,973 円（本新株予約権の目的である株式 1 株当たり 4,973 円）
9. 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
  - (1) 各本新株予約権の行使に際して出資される財産は金銭とし、その価額は、行使価額に割当株式数を乗じた額とする。
  - (2) 本新株予約権の行使に際して出資される当社普通株式 1 株当たりの金銭の額（以下「行使価額」という。）は、当初 654 円とする。
10. 行使価額の修正  
第 16 項第(3)号に定める本新株予約権の各行使請求の効力発生日（以下「修正日」という。）の直前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（同日に終値がない場合には、その直前の終値）の 90%に相当する金額の 1 円未満の端数を切り上げた金額（以下「修正日価額」という。）が、当該修正日の直前に有効な行使価額を 1 円以上上回る場合又は下回る場合には、行使価額は、当該修正日以降、当該修正日価額に修正される。但し、修正日にかかる修正後の行使価額が 458 円（以下「下限行使価額」といい、第 11 項の規定を準用して調整される。）を下回ることとなる場合には行使価額は下限行使価額とする。

## 11. 行使価額の調整

- (1) 当社は、当社が本新株予約権の発行後、下記第(2)号に掲げる各事由により当社の普通株式数に変更を生じる場合又は変更を生じる可能性がある場合には、次に定める算式（以下「行使価額調整式」という。）をもって行使価額を調整する。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行・処分株式数} \times \text{1株当たりの払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行・処分株式数}}$$

- (2) 行使価額調整式により行使価額の調整を行う場合及び調整後の行使価額の適用時期については、次に定めるところによる。

- ① 下記第(4)号②に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を新たに発行し、又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合（無償割当てによる場合を含む。）（但し、新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の行使、取得請求権付株式又は取得条項付株式の取得、その他当社普通株式の交付を請求できる権利の行使によって当社普通株式を交付する場合、及び会社分割、株式交換又は合併により当社普通株式を交付する場合を除く。）

調整後の行使価額は、払込期日（募集に際して払込期間を定めた場合はその最終日とし、無償割当ての場合はその効力発生日とする。）以降、又はかかる発行若しくは処分につき株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日の翌日以降これを適用する。

- ② 株式の分割により普通株式を発行する場合

調整後の行使価額は、株式の分割のための基準日の翌日以降これを適用する。

- ③ 下記第(4)号②に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を交付する定めのある取得請求権付株式又は下記第(4)号②に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）を発行又は付与する場合（但し、当社又はその関係会社（財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則第8条第8項に定める関係会社をいう。）の取締役その他の役員又は使用人に新株予約権を割り当てる場合を除く。）

調整後の行使価額は、取得請求権付株式の全部に係る取得請求権又は新株予約権の全部が当初の条件で行使されたものとみなして行使価額調整式を適用して算出するものとし、払込期日（新株予約権の場合は割当日）以降又は（無償割当ての場合は）効力発生日以降これを適用する。但し、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合には、その日の翌日以降これを適用する。

- ④ 当社の発行した取得条項付株式又は取得条項付新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の取得と引換えに下記第(4)号②に定める時価を下回る価額をもって当社普通株式を交付する場合

調整後の行使価額は、取得日の翌日以降これを適用する。

- ⑤ 本号①乃至③の場合において、基準日が設定され、かつ効力の発生が当該基準日以降の株主総会、取締役会その他当社の機関の承認を条件としているときには、本号①乃至③にかかわらず、調整後の行使価額は、当該承認があった日の翌日以降これを適用する。この場合において、当該基準日の翌日から当該承認があった日まで本新株予約権の行使請求をした新株予約権者に対しては、次の算出方法により、当社普通株式を交付する。

$$\text{株式数} = \frac{\left( \begin{array}{cc} \text{調整前} & \text{調整後} \\ \text{行使価額} & \text{行使価額} \end{array} \right) \times \text{調整前行使価額により}}{\text{調整後行使価額}} \times \text{当該期間内に交付された株式数}$$

この場合、1株未満の端数を生じたときはこれを切り捨てるものとする。

- (3) 行使価額調整式により算出された調整後の行使価額と調整前の行使価額との差額が1円未満にとどまる場合は、行使価額の調整は行わない。但し、その後行使価額の調整を必要とする事由が発生し、行使価額を調整する場合には、行使価額調整式中の調整前行使価額に代えて調整前行使価額からこの差額を差し引いた額を使用する。
- (4)① 行使価額調整式の計算については、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。

- ② 行使価額調整式で使用する時価は、調整後の行使価額が初めて適用される日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値の平均値（終値のない日数を除く。）とする。この場合、平均値の計算は、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。
- ③ 行使価額調整式で使用する既発行株式数は、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日、また、かかる基準日がない場合は、調整後の行使価額を初めて適用する日の1ヶ月前の日における当社の発行済普通株式の総数から、当該日において当社の保有する当社普通株式を控除した数とする。また、上記第(2)号⑤の場合には、行使価額調整式で使用する新発行・処分株式数は、基準日において当社が有する当社普通株式に割り当てられる当社の普通株式数を含まないものとする。
- (5) 上記第(2)号の行使価額の調整を必要とする場合以外にも、次に掲げる場合には、当社は、本新株予約権者と協議の上、その承認を得て、必要な行使価額の調整を行う。
- ① 株式の併合、資本の減少、会社分割、株式交換又は合併のために行使価額の調整を必要とするとき。
- ② その他当社の普通株式数の変更又は変更の可能性が生じる事由等の発生により行使価額の調整を必要とするとき。
- ③ 行使価額を調整すべき複数の事由が相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の行使価額の算出にあたり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。
- (6) 上記第(2)号の規定にかかわらず、上記第(2)号に基づく調整後の行使価額を初めて適用する日が第10項に基づく行使価額の修正日と一致する場合には、当社は、必要な行使価額及び下限行使価額の調整を行う。
- (7) 行使価額の調整を行うときは、当社は、調整後の行使価額の適用開始日の前日までに、本新株予約権者に対し、かかる調整を行う旨並びにその事由、調整前の行使価額、調整後の行使価額及びその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、上記第(2)号⑤に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。
12. 本新株予約権を行使することができる期間  
平成30年1月10日から平成32年1月9日までとする。
13. その他の本新株予約権の行使の条件  
各本新株予約権の一部行使はできない。
14. 本新株予約権の取得
- (1) 当社は、本新株予約権の取得が必要と当社取締役会が決議した場合は、本新株予約権の払込期日の翌日以降、会社法第273条及び第274条の規定に従って通知をした上で、当社取締役会で定める取得日に、本新株予約権1個当たり4,973円の価額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部又は一部を取得することができる。一部取得をする場合には、抽選その他の合理的な方法により行うものとする。
- (2) 当社は、当社が消滅会社となる合併又は当社が完全子会社となる株式交換若しくは株式移転（以下「組織再編行為」という。）につき当社株主総会で承認決議した場合、当該組織再編行為の効力発生前に、本新株予約権1個当たり4,973円の価額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部を取得する。
- (3) 当社は、当社が発行する株式が東京証券取引所により監理銘柄、特設注意市場銘柄若しくは整理銘柄に指定された場合又は上場廃止となった場合には、当該銘柄に指定された日又は上場廃止が決定した日から2週間後の日（休業日である場合には、その翌営業日とする。）に、本新株予約権1個当たり4,973円の価額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部を取得する。
15. 本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金及び資本準備金  
本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。
16. 本新株予約権の行使請求の方法
- (1) 本新株予約権を行使する場合、第12項記載の本新株予約権を行使することができる期間中に第19項記載の行使請求受付場所に対して、行使請求に必要な事項を通知するものとする。



- (2) 本新株予約権を行使する場合、前号の行使請求の通知に加えて、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の全額を現金にて第20項に定める払込取扱場所の当社が指定する口座に振り込むものとする。
- (3) 本新株予約権の行使請求の効力は、第19項記載の行使請求受付場所に対する行使請求に必要な全部の事項の通知が行われ、かつ当該本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の全額が前号に定める口座に入金された日に発生する。
17. 新株予約権証券の不発行  
当社は、本新株予約権に関して、新株予約権証券を発行しない。
18. 本新株予約権の払込金額及びその行使に際して出資される財産の価額の算定理由  
本発行要項及び割当先との間で締結する予定の第三者割当て契約に定められた諸条件を考慮し、一般的な価格算定モデルであるモンテカルロ・シミュレーションを基礎として、当社の株価、当社株式の流動性、割当先の権利行使行動及び割当先の株式保有動向等について一定の前提を置いて評価した結果を参考に、本新株予約権1個の払込金額を金4,973円とした。さらに、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は第9項記載のとおりとし、行使価額は当初、平成29年12月21日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値に相当する金額とした。
19. 行使請求受付場所  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
20. 払込取扱場所  
株式会社みずほ銀行 札幌支店
21. 社債、株式等の振替に関する法律の適用等  
本新株予約権は、社債、株式等の振替に関する法律に定める振替新株予約権とし、その全部について同法の規定の適用を受ける。また、本新株予約権の取扱いについては、株式会社証券保管振替機構の定める株式等の振替に関する業務規程、同施行規則その他の規則に従う。
22. 振替機関の名称及び住所  
株式会社証券保管振替機構  
東京都中央区日本橋茅場町二丁目1番1号
23. その他  
(1) 上記各項については、金融商品取引法による届出の効力発生を条件とする。  
(2) その他本新株予約権発行に関し必要な事項は、当社代表取締役社長に一任する。

以 上